



学校図書館における学習環境の整備

—新聞記事データベース「朝日けんさくくん」の活用を一例として—



佐々木 愛

<抄 録>

生徒の学び、教員の指導を支える学校図書館がどのようにその支援環境を整えることができるか。校内のICT環境の整備に伴い、導入することとなったオンラインデータベースについて述べる。

<キーワード>

学校図書館、オンラインデータベース、環境整備、探求型学習、進路指導、学校司書

1 はじめに

本校は2020年に創立130年を迎える歴史と伝統ある私立女子校である。語学教育には以前から力を入れているが、中学校は2015年度から、高校は2017年度からグローバルコースが設置され、2017年9月に英語学習中心の語学学習施設K-SALCがオープンした。英語のみならず、中国語・韓国語・フランス語を学ぶ環境も整っている。

司書の立場から生徒の学びと教員の指導を支えるため、どのように環境を整備していくかを考え、複数のオンラインデータベース導入に至った。真っ先に導入したのが、新聞記事データベース「朝日けんさくくん」であり、その経緯と活用、今後の展望についてお伝えしたい。

2 導入について

(1) 経緯

本校は東京都千代田区にあり、2008年に新校舎が現在の場所に建設された。土地柄、郊外の学校のように広い敷地とはいえない環境である。図書室も2教室分とこじんまりしたスペースである。自ずと蔵書や資料数が限られてくる。そういった環境で過去の新聞や縮刷版を保管しておくことは難しいのが現状であった。しかし、探求型学習での使用をはじめ、各教科での利用、大学受験を控えた高校3年生の対応を含め、新聞は欠かせない資料である。そんな中、校内はWi-Fi環境が整備され、2017年度より中学校・高校それぞれの新入生がノートパソコンChromebookを1人1台所有し、授業や学校生活で利用

が始まったことが導入のきっかけの1つとなった。各教室にはプロジェクターが設置され、教員もパソコンを活用しての授業が日々行われている。



写真1 本校図書室の様子

(2) 教員ガイダンス

まず、教員への研修を実施した。これまでオンラインデータベースを利用した経験の有無にかかわらず、これから生徒とともに利用していくためには教職員が知っておくことは必須である。朝日新聞社デジタル・イノベーション本部から講師を迎え、実施した。全教員が一度に研修を受けることで、共通認識を持つことができたように思われる。何かを調べる際にはインターネットだけではなく「オンラインデータベースを見るように」や「オンラインデータベースを確認したか」と生徒に伝えることが可能である。

また、この研修が司書から生徒へのガイダンスの元となっている。

(3) 導入後

導入したからすぐに利用がある、というわけではないのが実情であった。しかし、利用できる環境がなければ利用はおろかオンラインデータベースがどんなものかわからず、言葉のみで理解するしかない。インターネットでの検索とどう異なるか、オンラインデータベースの利点は何か、それらを理解し、利用を促すための環境整備

SASAKI, Ai : 神田女学園中学校高等学校 (東京都千代田区神田猿樂町 2-3-6)

が初めの一步である。

年度途中の導入であったため、生徒へのガイダンスは必要に応じて行うこととなった。導入直後は受験を控えた高校3年生への情報提供が中心であった。求める資料を司書が検索して提供することが多かったが、図書室の向かいがパソコン室という配置の良さもあり、「キーワード検索」と「ナビ検索」の違いなど詳しく説明し、各々の生徒が必要とする使い方を伝え、生徒も各自で活用していた。

3 本年度の利用状況・活用事例

(1) ガイダンスの実施

本年度は生徒へのガイダンスの時間を確保するため、前年度から教員にその旨を伝え、各クラスで実施した。

本校では中学校・高校それぞれに探求型学習の時間が設けられている。高校の探求型学習の授業は「地球市民」と名付けられ、オンラインデータベースのガイダンスはその中に組み込んでもらった。中学生は学年の枠を取り払い、全体で同じ時限に取り組んでおり、こちらも「プロジェクト学習」と称される探求型学習の時間にガイダンスを実施した。図書室にはプロジェクターがないため、4月はパソコンを携えて各教室へ説明行脚した。グローバルコースのクラスでは英文で記事が読めることも伝え、語学学習や留学へ向けて、生きた英語を学ぶ手段の1つでもあることを伝えた。

いずれも時間に制限があり、伝えきれないこともあったと思うが、そこは事後フォローで対処している。ガイダンスはあくまでもきっかけに過ぎない。不明な点や詳しく知りたいことがあれば、いつでも図書室にくるよう生徒へ呼びかけることで、フォロー体制があることを伝えている。

(2) 活用事例

① 中学生

中学校の探求型学習の時間では、「新聞記事検索」が組み込まれている。それぞれ課題に応じて、全ての生徒が記事を検索している。まだ不慣れな点多々見受けられるが、授業に組み込むことで習慣づけられることが期待される。

また、国語表現の授業では記事を読んで要約や意見を述べるということを行われており、授業での活用も少しずつ進んでいる。

② 高校生

先に述べた「地球市民」の授業での活用はもちろんのこと、最も利用が多いのが高校3年生の進路指導におい

てである。こちらは授業での利用ではなく、放課後個別対応がほとんどである。実際の紙面をまず一緒に見ながら、新聞のつくりや紙面構成の話をする。新聞を購読している生徒ばかりではないため、こういったことをきちんと伝えることにより、オンラインデータベースでの記事検索のイメージがつかみやすくなる。その後、必要に応じて自ら検索してもらう。生徒が迷ったり、悩んだりしたときはすぐに相談に応じる。普段使っている言葉以外にもキーワードになる言葉や言い換える言葉を伝えると生徒も理解し、スムーズに探し始める。小論文のために記事を探していたある生徒はナビ検索で連載記事の一覧を見られることを知り、「これ、とても便利ですね!!」と目を輝かせて資料を探していた。

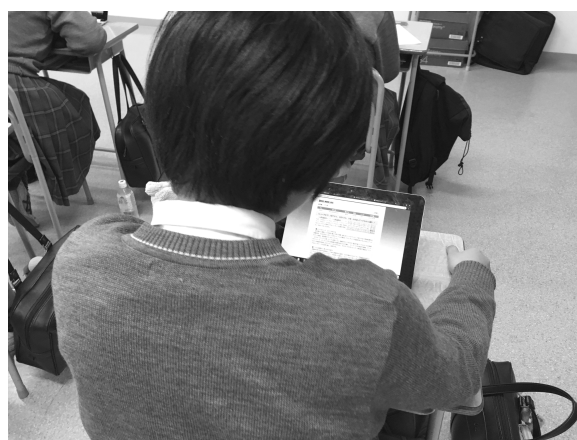


写真2「プロジェクト学習」で記事検索中の生徒

4 今後の展望

導入から1年ほどであるが、「新聞記事検索」とその活用について、生徒および教職員が慣れてきたように見受けられる。「新しいことが本になるまでには多少時間がかかる。新しいことや時事ニュースは新聞やインターネット、オンラインデータベースを活用して調べてみよう」と常に生徒へはいつている。

しかし、まだ定着しているとは言い難い。そこで、図書室としてできることから着手していく予定である。次年度は学年によってガイダンスの内容を変えていくことや生徒が楽しめる要素も組み込み、自らが「検索したい!」と思わせることも大切である。また、必要な情報をまとめて閲覧できる環境の整備にも努めたい。

一方で探求型学習の時間との連携も重要である。こちらは教員とどのように次年度進めて行くかを思案中である。それ以外の教科に関しても、教員との緊密な連携と協力により、更に充実した環境を整えていく予定である。